

【西都市】 ネットワーク整備計画

1. 必要なネットワーク速度が確保できている学校数、総学校数に占める割合（％）

「校内通信ネットワーク環境整備等に関する調査」（文部科学省・令和5年11月実施）では、「学校規模ごとの当面の推奨帯域」（文部科学省・令和6年4月）を満たす学校は1校であり、総学校数14校に占める割合は7%であった。

また、「ネットワークが遅いと感じることがあるか」という設問に対し、「よくある」と回答した学校が4校、「たまにある」と回答した学校が10校であった。

2. 必要なネットワーク速度が確保できていない学校への対応スケジュール

令和7年1月に、児童生徒数の多い3校で簡易ネットワーク調査を実施した。

上記の結果、3校とも100Mbps～180Mbpsで推移する値であった。3校とも「学校規模ごとの当面の推奨帯域」（文部科学省・令和6年4月）は満たしてはいないが、この3校では教育専用帯域を確保したサービスのプロバイダーを採用している。このプロバイダーはIPv6プラスを利用しており、またセッション数の制限のないサービスであり、端末が同時接続する際も安定した通信環境を実現できている。

「ネットワークが遅いと感じることがあるか」という設問に対する「よくある」、「たまにある」との回答については、ネットワークの速度に起因する現象ではないと現段階では判断している。各学校から「遅い」と連絡があった後に専門業者に依頼し現地調査を行ったが、再現性は見られなかった。

「遅い」と感じられた原因としては、各端末でWindowsアップデートがバックグラウンドで動作していたことや起動直後の早急な端末操作が要因であると考えられる。

本市の学校では、令和2年度にGIGAスクール端末を導入する際、ネットワーク構成に基づき、通信のボトルネックとなる可能性のある箇所にはカテゴリ6AのLANケーブルを敷設し、ネットワーク負荷を軽減する構成とした。

無線アクセスポイントについては、40台の端末が同時にアクセスしても安定して動作する高性能な機種を導入している。

特別教室等において無線アクセスポイントが未整備の教室があるが、これについては令和7年度に整備を検討している。ただし、小中一貫でない中学校2校においては、令和8年度に中学校の再編を予定しているため、ネットワークの整備は計画していない。また、その他のネットワーク機器も全てGIGAスクール対応の高性能機種で整備している。